



波多利朗の Funky Goods

日本のPC-8001に相当する(?)往年の名機
Sinclair SPECTRUM の資産を生かす

PS5用のSinclair SPECTRUM エミュレータでゲームを楽しむ

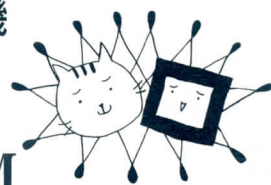


イラスト: Ree(スタジオ・ぶ〜)

今回ご紹介するのは、Psion Series 5上で動作するSinclair SPECTRUM エミュレータである。これを使用すれば、Psion Series 5上で、懐かしのSinclair SPECTRUM用に作成されたさまざまなゲームソフトを動作させることが可能となる。

ますますリキが入る脱線コーナー 今月は秋葉原で見つけた珍奇グッズ

性懲りもなく今月もテーマとは関係のない話題から始めよう。しかし、これだけ脱線していて誰からも苦情が来ないというのは実に不思議である。書くほうも書くほうなら、載せるほうも載せるほうで、読むほうも……だな。こちらとしてもだんだん脱線ネタのほうにリキが入ってしまうといった状態で、これでは本末転倒では……と思っているところである。

さて今回は、最近アキバで購入した珍奇グッズをご紹介します。

①真空管式並三(3球再生)ラジオ組み立てキット(写真1)

3月号の本欄では、パソコン雑誌にもかかわらず、なにを血迷ったか突然1968年頃の並三ラジオキットの解説などを始め、かなりカオスな記事となってしまった。しかし、まさか現在の秋葉原で並三ラジオキットが購入できるとは、この波多利朗といえども夢にも思っていなかったのだ(写真2)。やはり、世の中はレトロブームなのだろうか。

販売店は、秋葉原ラジオセンター(注1)の2階にある

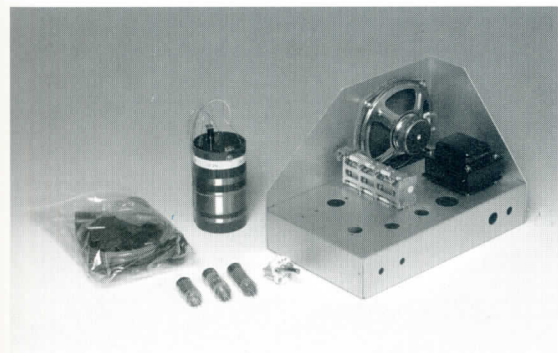


写真1 いまでも買える真空管式並三(3球再生)ラジオ組み立てキット

「東京科学無線電機商会」で、価格は1セット2万5500円である。キットは真空管式だが、肝心の真空管は別売りとなっており、同じく秋葉原ラジオセンターの1階にある「アムトランス」というショップで購入する。こちらの価格は、6BA6、6AR5、5MK9(注2)のセットで4200円だ。

さて、この真空管式並三ラジオキットだが、なんとも目立つのが、直径60mmという超大型並四再生検波コイルだろう(写真3)。おそらく特注品かと思われるが、一般的な並四コイルを見慣れてきた者にとっては、異様なほどデカイ！ 超大型コイルの採用は、高感度・高分離度を達成するためということになっているが、その他の理由として、バリコンの入手が困難であったということも考えられる。

このキットに使用されているメインのバリコンは、

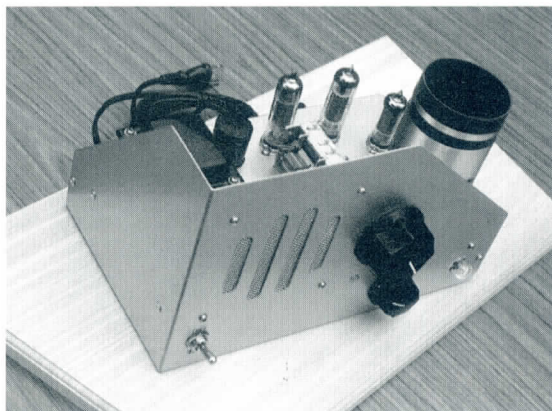


写真2 真空管式並三(3球再生)ラジオ組み立てキットの完成写真



写真3 キットに使用されている超大型並四再生検波コイル(右)。中央は、従来用いられてきた並四コイル

注1)秋葉原ラジオセンター
いわゆる秋葉原のガード下の、ショップが密集しているところがそれである。2階への階段を上ってすぐ左側にあるショップが東京科学無線電機商会だ。

注2)5MK9
整流用MT管。噂では、この5MK9が並三ラジオ用真空管のなかで最も入手しにくいということだ。ちなみに、6BA6は高周波増幅管、6AR5は電力増幅管である。



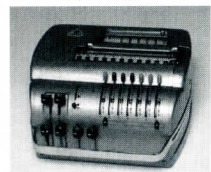


注3)ニューサクラヤ

東京ラジオデパートの裏口を出た路地の一番奥に位置するショップである。パソコンジャンク以外に、アマチュア無線やカーステレオのジャンクも置いている。昨年夏には、どこから入手したのか、レトロ測定器が大量にストックされ、この手回し計算機もそのときに入手した。不思議な店である。

注4)手回し計算機を収集するという変な癖があり

タイガー手回し計算機や、手回しではないが、独BRUNSVIGA社製の電動メカニカル計算機などを所有している(写真A)。



写真A 独BRUNSVIGA社製電動メカニカル計算機。手で回す代わりに電動モーターで駆動する

注5)オドナー計算機

オドナー計算機は、ドイツでは「ブルンスヴィガ(Brunsviga)」、アメリカでは「マーチャント(Marchant)」というブランド名で製造された。BRUNSVIGA社製の電動メカニカル計算機はこの後継機種に当たるものと思われる。

注6)W.T.ODHNER氏

ロシアに住むスウェーデン人であったそうだ。

注7)シリアル番号は「229-8414」とあった

型番が229で、シリアル番号が8414である。

注8)日米無線電機商会

万世橋を渡り交通博物館へ向かう途中の、JR中央線高架下の「ラジオガアデン」の中にあるジャンクショップ。レトロな電話機などを多数置いている。かなりディーブでカオスなジャンク屋さんだ。



従来の並三ラジオキットに使用されているものよりもかなり容量の小さい3連バリコンである。並三ラジオに3連バリコンを使用する必要はないため、おそらく現在入手できるものはこのタイプしかないだろう。このバリコンの形に合わせて同調回路を設計する必要があるため、このような大型コイルの採用に至ったものと思われる。

それはさておき、高額なキットだけあって、つくりは非常にしっかりしている。シャーシは必要な穴が全部空いており、電源トランスやバリコン、スピーカーなどはマウントされているし、レトロな感じの前面パネルも付いているといった凝りようだ。筆者はあまりの懐かしさに感涙を流すところであった———というところ多少オーバーだな。

キットには、簡単な組み立てマニュアルと、カラー印刷された「実体配線図」が付属している。そうそう、昔のキットには、必ず実体配線図なるものが入っていたものだ。

このキットであるが、店員の話によると、約200セットほど作成したそうだ。爆発的に売れる商品ではないため、入手は容易かと思われる。昔を懐かしんでみたい方は、ぜひ入手されたい。

②オドナー式手回し計算機(新品)(写真4)

まったく、どこにデッドストックされていたのか驚いてしまったのが、この新品のオドナー式計算機である。これは、昨年7月に秋葉原の有名なジャンク

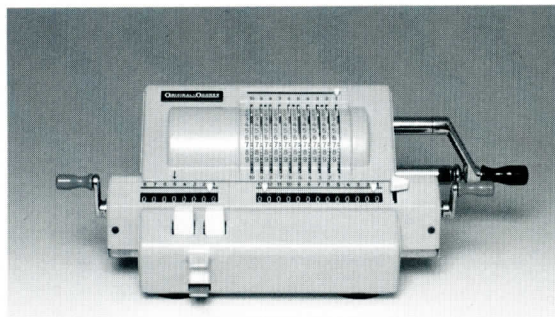


写真4 新品・元箱入りのオドナー式手回し計算機。超レアな逸品!

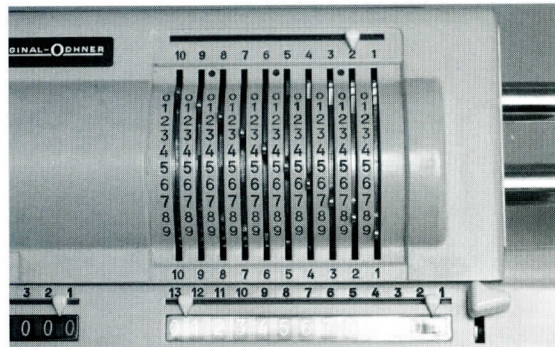


写真5 オドナー式手回し計算機の置数部分

ショップ「ニューサクラヤ(注3)」で2万5000円にて購入したものだ。新品、元箱・解説書付きという博物館コンディションである(写真5)。筆者には手回し計算機を収集するという変な癖があり(注4)、このマシンもコレクションのひとつに加わることになる。

このオリジナル・オドナー計算機はスウェーデン製であり、創業明治39年というチェルベルグ株式会社が入力/販売したものである。

解説書によると、オドナー計算機(注5)は、1874年(明治7年)にW.T.ODHNER氏(注6)により考案/製作されたということだ。日本にはじめて輸入された計算機もやはりこのオドナー計算機で、1905年(明治38年)のことであったという。このオドナー計算機の筐体にはスウェーデン鋼が使用されている。

解説書には、オドナー計算機を使用したさまざまな計算方法が掲載されており、勉強になる。例題として、966289の平方根を求める方法まで記載されており、手回し計算機といっても侮れないものである。

製造年月日は不明。シリアル番号は「229-8414」とあった(注7)。他の手回し計算機と同様、このマシンも腰が抜けるほど重い。

③41号試験用送受器(写真6)

電話の受話器の背面に10PPSのダイヤルが付いている。電電公社時代に電話局で使用されていたテスト用送受話器で、「昭和50年12月 三陽工業製造」と記されている。ただ単に、形状があまりに奇抜なので食指が動いてしまったものである。秋葉原・万世橋近くにある「日米無線電機商会(注8)」で9800円にて購入した。

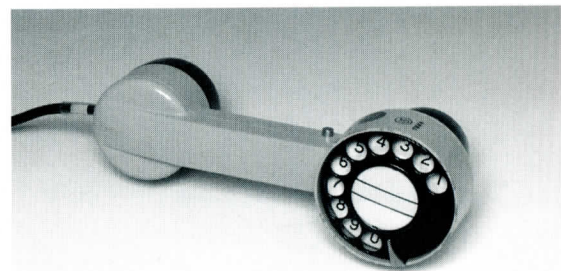


写真6 インテリアに最適? 奇抜な形の41号試験用送受話器



写真7 懐かしのApple IIe



④ Apple II e(写真7)

秋葉原のラジオデパート地下1階にある「秋葉原エレクトリックパーツ^(注9)」は、その手の人には非常に有名なお店である。この略称「エレパ」で購入したのが、Apple II eだ。ジャンク扱い、保証なしで、購入価格は8000円である。

このエレパでは以前にもApple IIが出たことがあったが、キートップに欠損部分があり、状態が良いとは言えなかった。先日またま立ち寄ったら、非常に状態の良いものが出ていたので、思わず購入した次第である。

Apple II eは、手元の資料によれば1983年に発売されている。1983年といえば、東京ディズニーランドがオープンした年だ。パソコンの世界では、IBM PC/XT、Apple Lisa、PC-9801F2、MSX仕様パソコンなどが発売された年である。ちなみに、Apple IIがはじめて登場した年は1977年であった。

筆者はApple使いではないが、Apple IIにしる1983年に発売されたMacintoshにしる、この頃のアップル社の製品にはなかなか独特な味があり気に入っている。

▶ 欧州では80年代を代表するパソコン ホビー向けのSinclair SPECTRUM

かなり長く脱線してしまったが、いよいよ本題に入る。

まず最初に、Sinclair SPECTRUMというマシンについて簡単にご説明しよう。

Sinclair SPECTRUMは、1982年に発売された、Z80A CPUを使用した英国製パソコンである。ヨーロッパでは、80年代を代表するパソコンのひとつとなっている。日本では、さしずめPC-8001がこれに相当するだろう。

Sinclair SPECTRUMには、RAMが16KBと48KBの2種類の製品がある^(注10)。表示装置には、一般のTVを使用する。

筆者は残念ながらこのマシンを使用した経験はないが、キーボードが非常に特徴的で、5つのファンクションを持つキーもあったという。初代のSinclair SPECTRUMのキーボードには、スペースバーがない。スペックを下記に示す。

- ・CPU：Z80A
- ・クロックスピード：3.54MHz
- ・ROM：16KB
- ・RAM：16/48KB
- ・テキスト表示：32×22^(注11)
- ・グラフィック表示：256×192、8色(高解像度表示)^(注12)
- ・サウンド機能：1チャンネル
- ・I/Oポート：Z80バス、テープドライブ、TV
- ・サイズ：233×144×30mm

人気の高い製品であったため、同マシン用に非常に多くのソフトウェアが開発された。ホビー向けマシンという性格上、とくにゲームソフトが多いのが特徴である。

このマシンは、1984年にSPECTRUM+という製品に置き換わっている。このSPECTRUM+は、RAM 48KBのSPECTRUMをベースとしており、キーボードに、従来なかったスペースバーとBreak、Deleteなどのいくつかのキーを追加したモデルである。

また、Sinclair SPECTRUMは、Timexというブランド名で各国に輸出されていた。

周辺機器にもユニークなものがあり、The ZX Microdriveという製品は、テープメディアにデータを記録するストレージデバイスである。これを用いると、約100KBの容量のデータを蓄積することができたという。なお、アクセスタイムは3.5秒(!)となっている。

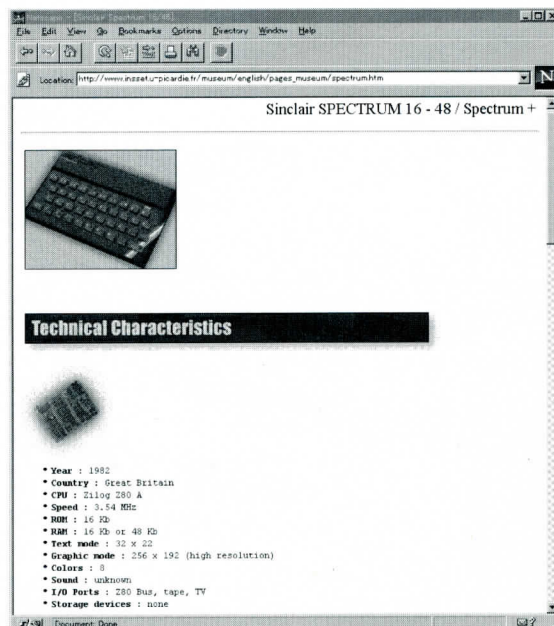
Sinclair SPECTRUMについての詳細な情報は、下記のURLで得ることが可能だ。

http://www.insset.u-picardie.fr/museum/english/pages_museum/spectrum.htm(画面1)

<http://www.hh.schule.de/hhs/computer/english/specpy.htm>(画面2)

Sinclair SPECTRUMのWebページには、以下の機種向けのSPECTRUMエミュレータが掲載されている。

- ・Archimedes Computers用
- ・Atari ST/TT/Falcon用
- ・X-Window用



画面1 Sinclair SPECTRUM 16-48/SPECTRUM+を紹介するページ

注9)秋葉原エレクトリックパーツ

解説不要とも思えるくらい有名なショップ。売場面積の狭さはアキバでも屈指のもの。

注10)RAMが16KBと48KBの2種類の製品がある

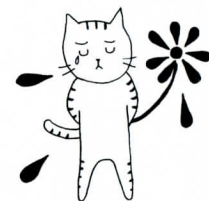
その後に登場するSPECTRUM 128では、RAM容量は128KBにまで拡張されている。

注11)32×22

テキスト表示については、32×22という記述と、32×24という記述の2通りがある。

注12)8色(高解像度表示)

グラフィックス表示については、16色と記述しているところもある。





注13)「DOOM」の Psion Series 5版である「ENCORE」

3月号の本欄97ページを参照のこと。DOOMをPsion Series 5上でプレイするためのソフトである。WADファイルは、オリジナルのDOOMのものをコンバートして使用できる。このソフトは Geofox One でも動作可能である。

注14)Sinclair SPECTRUM用の4000を超えるゲーム

多ければよいというわけでもないが、とてつもない量であることは確かである。しかし、なかにはつまらないゲーム(別称クソゲー)もかなり入っているものと思われる。

注15)Series 5上のC:\SYSTEM\APPS\Z80フォルダに転送するだけでよい

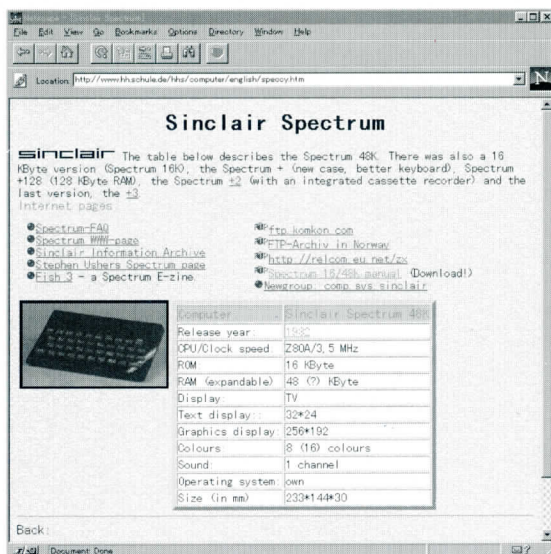
エミュレータソフトは、必ずしもCドライブに置かなくてもよい。Cドライブの容量が不足しているときは、Dドライブに置いて使うことも可能である。

注16)C:\GAMESディレクトリに格納されているゲームソフト

起動時に、C:\GAMESフォルダを自動的に見に行くが、もちろんD:\GAMESフォルダにゲームソフトを格納しても構わない。

注17)ファイル名を見ただけでその形式がわかるように

Z80形式、TAP形式などがあり、ファイル名を見ただけでそのデータがどのような形式で保存されているのかわかり、重宝する。



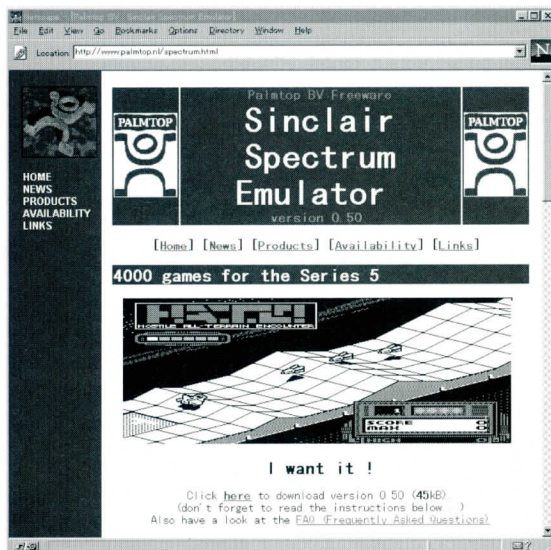
画面2 Sinclair SPECTRUMを紹介するページ

- ・ IBM PC/AT 互換機用
- ・ Amiga 用
- ・ Linux 用
- ・ Macintosh 用

4000のゲームをプレイできる Psion Series 5用エミュレータ

前述したように、Sinclair SPECTRUMは一世を風靡したマシンであるため、専用ソフトウェアが多数つくられた。現行のさまざまなマシンでこれらのソフトを動作させるために各種エミュレータソフトが開発されてきたが、ここでご紹介する「Psion Series 5用Sinclair SPECTRUM Emulator」もそういったもののひとつである。

Psion Series 5用 Sinclair SPECTRUM Emulatorは、



画面3 Psion Series 5用 Sinclair SPECTRUM Emulatorのダウンロードページ

下記の URL からダウンロードできる。

<http://www.palmtop.nl/spectrum.html>(画面3)

ここにアクセスすればおわかりいただけるが、このエミュレータを開発したのは、IBM PC用のゲームソフト「DOOM」の Psion Series 5版である「ENCORE」(注13)を制作したところである。

トップページには「4000 games for the Series 5」と書かれており、このエミュレータを使用することによって、Sinclair SPECTRUM用の4000を超えるゲーム(注14)がプレイできることをアピールしている。

Sinclair SPECTRUM Emulatorの1998年3月1日現在のバージョンは0.50、アーカイブファイル名は spectrum.zip で、ファイル容量は約45KBである。

spectrum.zipを解凍すると、表1のファイルが生成される。

Psion Series 5へのインストールは簡単で、表1の5つのファイルを PsiWin などのコネクトソフトを使って、Series 5上のC:\SYSTEM\APPS\Z80フォルダに転送するだけでよい(注15)。あとは、ExtrasのZ80アイコンをタップすれば、エミュレータの起動メッセージが出力される(画面4)。

なお、Sinclair SPECTRUM Emulatorは、起動すると、C:\GAMESディレクトリに格納されているゲームソフト(注16)を見に行くようになっている。

Web上に豊富にあるゲームソフトを 入手して、¥GAMESに転送する

エミュレータソフトをインストールしたら、次に Sinclair 用のゲームソフトを入手する。さすがに有名なマシンだけあり、ゲームソフトはWeb上にイヤというほど掲載されている。ソフトを掲載している代表的なサイトは、下記の2つである。この2ヵ所ではほとんど用が足りるだろう。入手したソフトは、圧縮ファイルを展開したあと、¥GAMESというディレクトリの中に転送しておく。

<ftp://ftp.gns.getronics.nl/pub/os/sinclair/games-fullnames/>(画面5)

これは、Sinclair用のゲームソフトをアルファベット順に整理してデータベース化したFTPサイトである。各ゲームは、ファイル名を見ただけでその形式がわかるように(注17)、フルネームで記載されている(ゲームのファイル形式については後述する)。

<http://www.void.demon.nl/archive.html>(画面6)

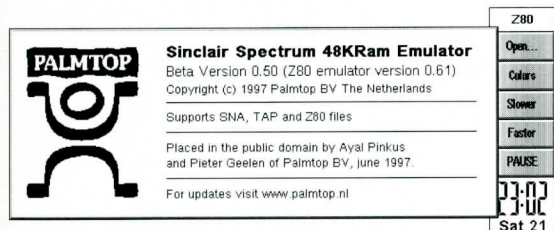
これは、Martijn van der Heide氏が個人で運営しているホームページの中にある。

このページ中のThe World of SPECTRUMのアーカ



◎表1 spectrum.zip の内容

Z80	APP	85,220	97-09-04	17:42	Z80.APP
SPECTRUM	ROM	16,384	97-06-22	20:55	SPECTRUM.ROM
LOGO	PBM	2,477	97-06-06	13:46	LOGO.PBM
Z80	RSC	1,452	97-09-04	17:43	Z80.RSC
Z80	AIF	1,390	97-08-15	16:13	Z80.AIF



画面4 Sinclair SPECTRUM Emulator の起動メッセージ画面

イブには、およそ 5000 個に及ぶゲームソフトがアルファベット順に掲載されている。

ロード後すぐに実行可能な Z80 形式と SPECTRUM BASIC から実行する TAP 形式

Sinclair SPECTRUM 用のソフトウェアには、下記に示す形式がある。

・Z80 形式

この形式のファイルは、「スナップショットファイル」と呼ばれている。その名のとおり、マシンのメモリとレジスタの内容をそのままコアダンプしたものである。エミュレータ用ソフトとして登録されているものでは一番多い形式である。

エミュレータ上では、この形式のファイルはロード後すぐに実行可能となる。

・TAP 形式

Sinclair SPECTRUM の外部記憶装置であったカセッ

トテープに保存されている形式をそのままファイルに落としたものである。この形式のファイルをエミュレータで実行させるには、SPECTRUM BASIC 上からプログラムをロードさせる必要がある。

Psion Series 5 の Extras に登録されている Z80 アイコンをタップすると、エミュレータが起動する。プレイしたいゲームのファイラーで選択すると、そのファイルが Z80 形式であれば、すぐにプログラムが起動する。もし、プログラムファイルが TAP 形式であれば、SPECTRUM BASIC が起動するので、

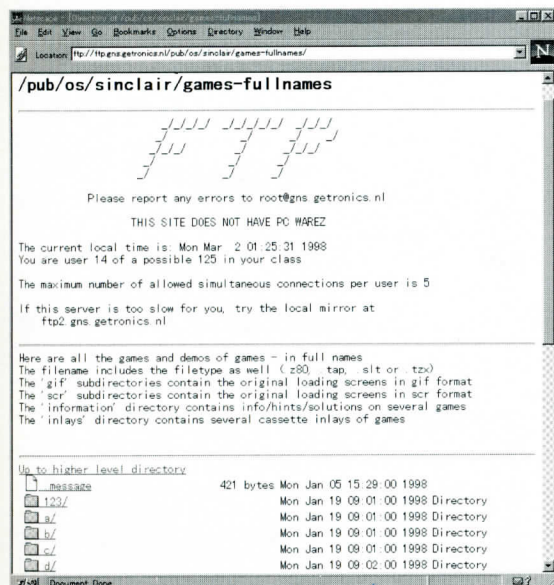
[J]キー→[Fn + P]キー→[Fn + P]キー

の順に押して、画面下部に「LOAD'''」の表示を出してからリターンキーを押す。するとプログラムがロードされ、プレイできるようになる。

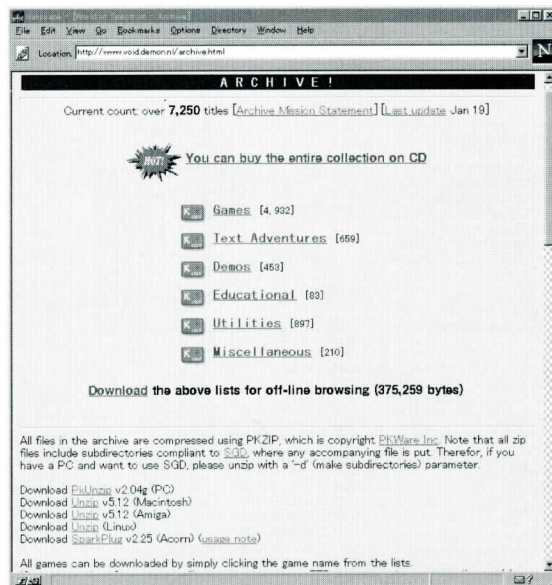
多くの SPECTRUM 用ゲームソフトは、Kempston Joystick というジョイスティックに対応している。エミュレータ上でこのジョイスティック操作に対応させるには、Menu から「Kempston Emulator = ON」と設定しておけばよい。

ゲームソフトの動作確認ではキーアサインの調査が困難

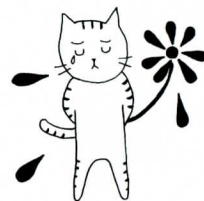
Sinclair SPECTRUM 用ソフトウェアは Web 上に非常に多く登録されているが、そのすべてが動作すると



画面5 Sinclair 用のゲームソフトの FTP サイト



画面6 Sinclair 用のゲームソフトの FTP サイト





いうわけではない。とくに Psion Series 5 用 Sinclair SPECTRUM Emulator では、RAM を 64KB 以上必要とするソフトウェアは動作させることができない。その他、原因ははっきりとはわからないが正常に走らないものもある。

ここでは、筆者が動作を確認できたソフトウェアをいくつかご紹介する。

なお、ゲームソフトが動作しても操作するためのキーアサインがまちまちであるため、これらを調査するのも大変な作業である^(注18)。そこで、以下に列挙するソフトウェアについては、環境設定とゲームのコントロール方法を簡単に示しておくことにする。

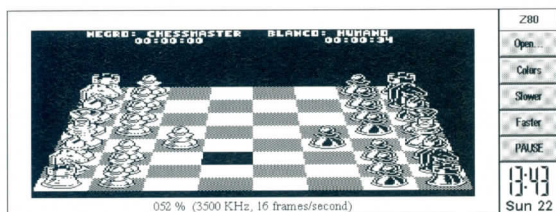
● <ftp://ftp.gns.getronics.nl/pub/os/sinclair/games-fullnames/> から入手したソフトウェア

① Chess Master 2000(画面 7)

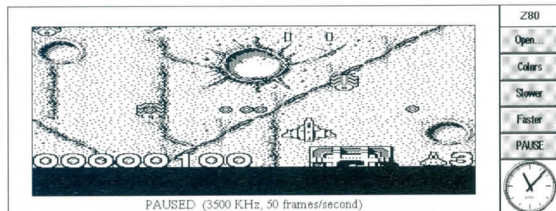
- ・登録ファイル名: Chessmaster2000The.z80.zip
- ・ファイルタイプ: Z80 形式
- ・容量: 19KB
- ・登録日時: Fri Jan 03 00:00:00 1997
- ・セッティング: Kempston Emulator = OFF
- ・コントロール: [Space]=オプション設定 (p'=オプション画面クローズ)
[P]=右
[O]=左
[Q]=上
[A]=下
[Enter]=選択

② Hades Nebula(画面 8)

- ・登録ファイル名: HadesNebula.z80.zip
- ・ファイルタイプ: Z80
- ・容量: 27KB
- ・登録日時: Fri Jan 03 00:00:00 1997
- ・セッティング: Kempston Emulator = ON
起動メニューから「3 KEMPSTON



画面 7 Chess Master 2000 の画面



画面 8 Hades Nebula の画面

JOYSTICK」を選択

- ・コントロール: [Space]=Fire
カーソルキー=移動

③ HATE(画面 9)

- ・登録ファイル名: HATE(HostileAllTerrainE...
- ・ファイルタイプ: TAP 形式
- ・容量: 23KB
- ・登録日時: Fri Jan 03 00:00:00 1997
- ・セッティング: LOAD "" ([J]キー→[Fn+P]キー→[Fn+P]キー)
Kempston Emulator = ON
起動メニューから「3 KEMPSTON」を選択

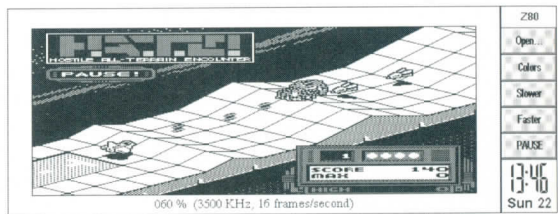
- ・コントロール: [Space]=Fire
カーソルキー=移動

④ Lemmings(画面 10)

- ・登録ファイル名: Lemmings48.tap.zip
- ・ファイルタイプ: TAP 形式
- ・容量: 89KB
- ・登録日時: Thu Aug 28 00:00:00 1997
- ・セッティング: LOAD "" ([J]キー→[Fn+P]キー→[Fn+P]キー)
Kempston Emulator = OFF
[Space]を押して「OPTIONS PAGE」へ
[Enter]を押して「KEMPSTON JOY STICK」を選択
[Space]を押してレベル選択画面へ
Kempston Emulator = ON
[Space](Fire)を押してゲームスタート
- ・コントロール: [Z][X]=メニュー移動
[Space]=選択
カーソルキー=移動

⑤ Loopz(画面 11)

- ・登録ファイル名: Loopz.tap.zip



画面 9 HATE の画面



画面 10 Lemmings の画面

注 18) これらを調査するのも大変な作業である

キーアサインの調査は、ドキュメントがないため、実際に動作させて試してみるのが方法がない。





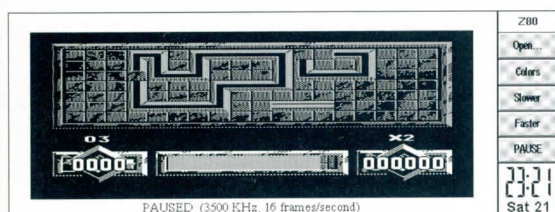
- ・ファイルタイプ：TAP 形式
- ・容量：25KB
- ・登録日時：Mon Jul 28 00:00:00 1997
- ・セッティング：LOAD "" ([J]キー→[Fn+P]キー→[Fn+P]キー)
- Kempston Emulator = OFF
- カーソルキーとSpaceでオブション選択
- ・コントロール：カーソルキー= Move
- [Space]=回転
- [Enter]=配置

⑥ Packman(画面 12)

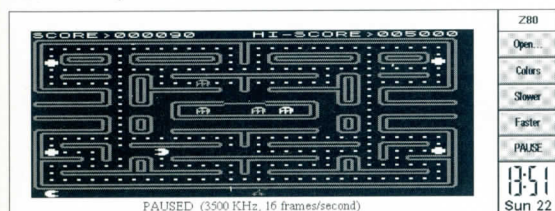
- ・登録ファイル名：Pac-Man_2.z80.zip
- ・ファイルタイプ：Z80
- ・容量：10KB
- ・登録日時：Mon Jul 28 00:00:00 1997
- ・セッティング：Kempston Emulator = OFF
- ・コントロール：カーソルキー= Move

⑦ PackMania(画面 13)

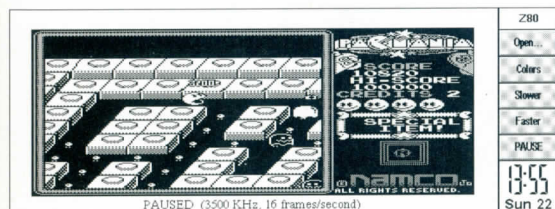
- ・登録ファイル名：Pac-Mania48.z80.zip
- ・ファイルタイプ：Z80
- ・容量：21KB
- ・登録日時：Fri Jan 03 00:00:00 1997
- ・セッティング：Kempston Emulator = OFF
- [O]/[K]/[Space]でオブション選択
- ・コントロール：[O]=上
- [K]=下
- [Z]=左



画面 11 Loopz の画面



画面 12 Packman の画面



画面 13 PackMania の画面

[X]=右

⑧ Pinball Power(画面 14)

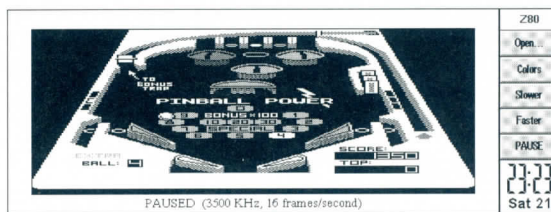
- ・登録ファイル名：PinballPower.z80.zip
- ・ファイルタイプ：Z80
- ・容量：25KB
- ・登録日時：Mon Feb 03 00:00:00 1997
- ・セッティング：Kempston Emulator = OFF
- Space でゲームスタート
- ・コントロール：[Enter]ボール打ち出し
- [P]右フリッパー
- [Q]左フリッパー

⑨ Sim City(画面 15)

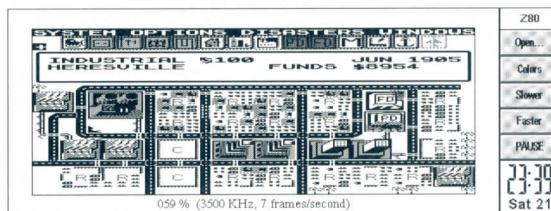
- ・登録ファイル名：SimCity.tap.zip
- ・ファイルタイプ：TAP 形式
- ・容量：24KB
- ・登録日時：Wed Nov 19 12:53:00 1997
- ・セッティング：LOAD "" ([J]キー→[Fn+P]キー→[Fn+P]キー)
- Kempston Emulator = ON
- ・コントロール：[Space]=メニュー選択、アイテム配置
- カーソルキー=移動

⑩ Spindizzy(画面 16)

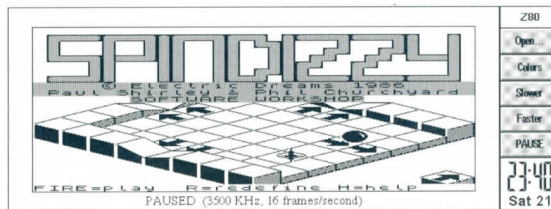
- ・登録ファイル名：Spindizzy.tap.zip
- ・ファイルタイプ：TAP 形式
- ・容量：26KB
- ・登録日時：Mon Jan 20 00:00:00 1997
- ・セッティング：LOAD "" ([J]キー→[Fn+P]キー→[Fn+P]キー)



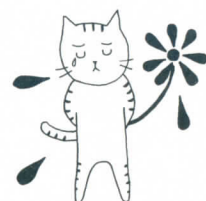
画面 14 Pinball Power の画面



画面 15 Sim City の画面



画面 16 Spindizzy の画面





+P]キー)

Kempston Emulator = ON

[Space]でゲームスタート

・コントロール：カーソルキー=移動

① Uridium Plus(画面 17)

・登録ファイル名：UridiumPlus.z80.zip

・ファイルタイプ：Z80

・容量：21KB

・登録日時：Mon Jan 06 00:00:00 1997

・セッティング：Kempston Emulator = ON
[Enter]/[Space]でゲームスタート

・コントロール：[Space]= Fire
カーソルキー=移動

・登録ファイル名：Lode Runner((New game set) Software Projects Ltd

・ファイル形式：Z80

・容量：18KB

・登録日時：Dec 26 1996

・セッティング：Kempston Emulator = OFF
初期メニューで「1 KEYBOARD」選択
初期メニューで「5 REDEFINE KEYS」で好みのキーアサインをセットする

・コントロール：セットしたキーアサインに従う

② Tetris(画面 19)

・登録ファイル名：Tetris 1986 Alexey Pazhitnov 48 Arc Z80

・ファイル形式：Z80

・容量：15KB

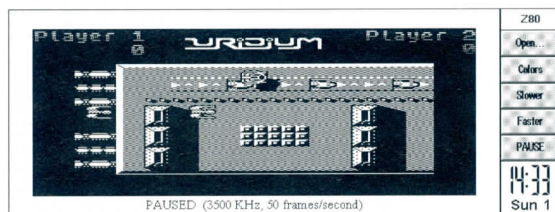
・登録日時：Jul 20 1997

・セッティング：Kempston Emulator = ON

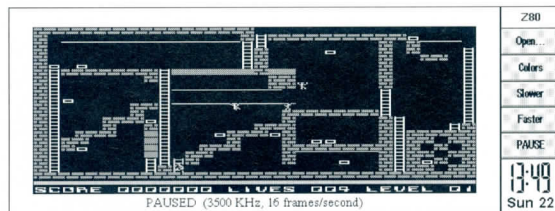
・コントロール：[Space]=回転
カーソルキー=移動

● <http://www.void.demon.nl/archive.html> から入手したソフト

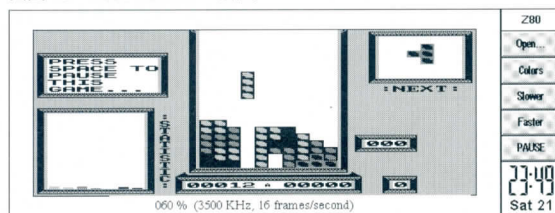
① Lode Runner(画面 18)



画面 17 Uridium Plus の画面



画面 18 Lode Runner の画面



画面 19 Tetris の画面

注 19)下部のドットが欠けた状態で表示されてしまう
たとえば、TAP 形式のプログラムをエミュレータで動作させるには、

LOAD" " (J → Fn+P → Fn+P → Enter)

と、おまじないを打ち込む必要があるが、下部のドットが表示されないため、これが見えない。しかし、構わず打ち込むと、プログラムがロードされるといった具合である。

Geofox One 上での動作ではグラフィックス表示に問題が……

Geofox Oneは、3月号でご紹介したが、Psion Series 5 互換 OS を搭載したマシンである。

このマシンで Sinclair SPECTRUM Emulator が動作するかどうかをテストしてみたので、ご報告したい。

結果から言うと、現在の Sinclair SPECTRUM Emulator のバージョン (Ver.0.50) では、いちおう動作するが、グラフィックスが正常に表示されない。すなわち、画面の下部のドットが欠けた状態で表示されてしまうのだ(写真 8)(注 19)。

その他の部分は正常に動作しているようであり、グラフィックス部分のみが正しく表示されれば問題はないわけで、この点が非常に残念である。今後のバージョンアップで改善されることを期待したい。

写真 8

Geofox One(右)と Psion Series 5 で Sinclair SPECTRUM Emulator を動作させた。動作しているゲームソフトは、両機ともに「HATE」である

